

東日本大震災10年

ICONS OF TIME 2021

六田知弘写真展 — 時のアイコン —



波にのまれ、
打ち捨てられたモノたち。
そこに蓄積した時間を想像し、
モノたちが語る声に、耳を傾ける。

2021 3.1_月 - 3.12_金

会場 / ポルテ金沢 1F 北陸銀行横壁面 10:00~19:00 3F 玄羅 12:00~16:30

最終日は午後3時30分まで 3日(水) 10日(水) 休み

主催: 玄羅、ポルテ金沢

東日本大震災10年

ICONS OF TIME 2021

六田知弘写真展 — 時のアイコン —

『モノの記憶』

被災地で見つけたモノを、持参した白い紙の上に置いて撮った。

『モノの記憶』をカメラで記録した。

モノには時間が堆積している。

被災する前にそれらを生活の中で使っていた人たちの時間。

そして、3・11の津波の瞬間の時間。

そして、3・11以降、撮影されるまでの時間が堆積している。

写真を見て、写されたモノたち自身が語る声に耳を傾けてほしい。

白紙の上にモノを載せて撮ったのは、より鮮明に声を聞くためである。

その声を記録し、伝えることが写真家としての私の仕事だと考えた。

私は鎮魂と祈りの気持ちを込めて、

それらモノたちの写真を「時のアイコン」と名付けた。

六田知弘



2021 3.11月-3.12金

会場/ポルテ金沢 1F 北陸銀行横壁面 10:00~19:00 3F 玄羅 12:00~16:30 最終日は午後3時30分まで 3日(水)10日(水)休み

主催:玄羅、ポルテ金沢

写真家

六田知弘

むだともひろ

1956年奈良県生まれ。

1982年よりネパールヒマラヤ山中のシャルパの村に暮らして撮影。

1988年初個展「ひかりの素足-シェルパ」(新宿ニコンサロン)を開催する。

以降、「自然や宇宙と人間との根源的なつながり」を遠くに探りながら、モノ、風景、石、水、壁、人、文化財や遺跡、古美術品など様々な事象を対象に撮影し、写真展や出版を通じて発表する。

- 写真展
- ・2007年 国立西洋美術館で「祈りの中世 ロマネスク美術写真展」を開催。
 - ・2008年 中国の「雲岡石窟」の全容を撮影し、2011年写真展「雲岡 仏宇宙」(満山龍泉堂)を開催。
 - ・2009年より写真展「サンティアゴ巡礼の道 六田知弘 東洋のまなざし」が世界各地を巡回中。
 - ・2011年の震災後の東北地方にて、津波にのまれ打ちあげられた被災物を撮影し、2013年より写真展「時のアイコン-東日本大震災の記憶」として相田みつを美術館や渋谷区立松涛美術館など、国内外を巡回。
 - ・2014年 大阪市立東洋陶磁美術館で「蓮-清らかな東洋のやきもの×写真家・六田知弘の眼」を開催。
 - ・2017年 大阪と奈良県御所市にて「写真家 六田知弘 宇宙のかけら-御所GOSE」を開催。
 - ・2018年 静岡県の池田20世紀美術館にて 六田知弘写真展「壁・ヒミツノアリア」を開催。
 - ・2020年 六田知弘写真展「仏宇宙」を相田みつを美術館で開催。
- そのほか、国内外の美術館やギャラリーなどでの個展多数。

写真集 『石と光 シトーのロマネスク聖堂』(平凡社刊) / 『時のアイコン 東日本大震災の記憶』(平凡社刊)
『ロマネスク-光と闇にひそむもの』(生活の友社刊) / 『仏宇宙』(生活の友社刊) など多数。

アート
玄羅
gen ra

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ポルテ金沢3F [ホテル日航金沢横]

TEL/FAX 076-255-0988 E-mail genraart@ozzio.jp

Web www://genraart.com  玄羅アート

